

インターバンクの声（2017年3月31日）

本邦の期末という神経質な時期での110円割れが懸念されたドル円だが、週前半に発表された米消費者信頼感指数や住宅関連指標が堅調だった上に、昨晚発表された2016年10-12月期の米GDP確報値も改定値から上方修正され、昨夜は112円近くまで円売り・ドル買いが進んだ。

もともと、米経済指標の堅調さだけがドル買いを支えた訳ではなく、昨晚は原油価格が久しぶりに50ドル台に戻したことや米10年債利回りが2.4%台に回復したことも影響していたようだ。ただ、米GDP発表後にドルが上昇し始めて間もなく、トランプ大統領が為替操作国に対して制裁を検討しているとする関係者からの発言が伝わるとドルが大きく下げる結果となった。こうした反応を見ると、市場は引き続きトランプ政権がドル高には不満を持っているのではとの憶測が消えていないことをうかがわせる。

それでもドル円は、週足・雲の上限といったポイントはしっかり超えてきており、112円台の中盤まで戻すようなことがあれば、市場参加者も再びドル買い要因を探すような地合いになるかも知れない。ただ週末週初が海外勢にとっても四半期末初という微妙な時期だけに、想定外の大量売買が持ち込まれることもあり、突然の相場急変には注意が必要だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。